

ぎゅっしたい!! 牧場アイドル大集合。

牧場お取り寄せカタログ

全112種類。

BRUTUS®

みんなの牧場。



2010 11/15 特別定価 630円

AUSTRALIA

メリー・マウント・ハウス
●オーストラリア/ヴィクトリア州

名馬が生まれる環境作り、愛する馬と切り離されない家。

馬 が駆け抜ける大地に、白黒ブチ柄の建物が。反対側に回れば、プールやガラス張りの応接ルーム。その正体とは、厩舎とオフィス、住居、ゲストハウスを一つ屋根の下にまとめた施設である。素朴な外観とは裏腹に、内部の空間はとてもモダン。スタイリッシュなキッチンやベッドルームからガラス窓を隔てて厩舎の馬が見られる。「ここは競走馬の繁殖施設だから普段は牝馬と馬の赤ちゃんが暮らしている。出産や子育てに励む彼女たちを、さりげなく見守ってやれるんだ」と説明するのは、建築を手がけたミドルトン氏。設計者やオーナーの愛が感じられるような建築だ。



Luke Middleton

ルー・ミドルトンは1967年生まれ。2000年、メルボルンにEMEグループ(現emeデザイン)を設立。国内外で住宅、公共建築、都市計画などを多数手がけている。村上春樹の影響を受けて「羊男」をテーマにアート活動も実践。



上/外観はホルスタインではなく、家のオーナーが好きなダルメシアン柄をイメージ。下/キッチン窓から、ダイレクトに馬たちが見える。馬たちも同様に人間の暮らしを観察。



©MVRDV

UK

バラシング・バーン
●イギリス/サフォーク州

現代人に必要な2つの暮らし、大事なものはバランス感覚。

宙 に浮かんだ納屋? それとも崖から落ちこちる寸前でスリル満点の家? これは5組の建築家がそれぞれ別荘を作る「リビング・アーキテクチャー」プロジェクトのうち、8月に完成したMVRDVによる作品だ。建設地は、黒い顔でお馴染みの羊、サフォーク種原産地。それにしてもこのヒヤヒヤする外観に込めた思いとは? 代表のマス氏は「このバランスで心理的な効果も狙います。都会の先にある郊外のランドスケープへ、そのまま飛び込める家です」。道の行き止まりが選ばれたことにも、そんなメッセージがあったとは。自然の中で頭を切り替えリフレッシュしたら、また元気に都市の生活へと戻る。ありのままの風景や生き物を愛でながらの休息は、現代の人々にこそ必要だろう。

上/突き出た建物の下にハイジのブランコ/その周囲では、サフォーク種の羊が草を食む。下/内部はこんなテイスト。のどかな牧場の風景を、壁や床面の窓から取り込んでいる。



MVRDV

左から/1959年生まれのヴィニー・マス、1964年生まれのヤコブ・ファン・ライス、1965年生まれのナタリー・デ・フリイスの3人が、91年ロッテルダムで結成。名前はメンバーの頭文字から。作品に表参道「GYRE」など。



USA

パリッシュ美術館
●アメリカ/ニューヨーク州

世界的なスター建築事務所が開拓時代を思わせる表現に挑戦。

ガ ラス彫刻のようなプラダ青山店や、北京五輪メインスタジアム「鳥の巣」など、斬新な建築を手がけてきたヘルツォーク&ド・ムーロン、2012年完成予定の新作。ロングアイランド東端のウォーターミルにできる建物の外観は、周辺にある牧場の納屋のようにそっけない。アメリカ近現代美術のコレクションを揃える100年以上の歴史を持つ美術館、その新館工事にしてはちょっと意外? 「土地の歴史を引き継ぎつつ、新しい表現を探った結果です」とは、プロジェクト担当のメルゲンターラー氏の言。シンプルな素材とディテール、自然や日光を生かした設計。ロイ・リキテンシュタイン、ジャクソン・ポロック……陳腐化しない空間はアメリカ美術の歴史と末長く向き合うのに最適なのだ。

上/鏽態を誘う外観。地平線と平行な直線を使った建物は、周囲の風景に溶け込んでいる。下/落ち着いて作品と向き合える、高い天井。北向きの天窗からの自然光が室内を満たす。



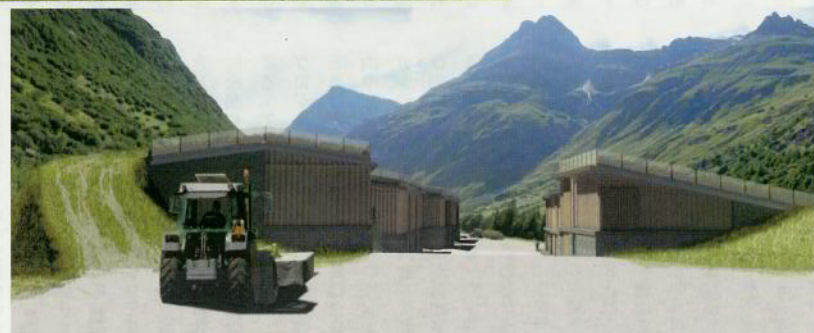
Herzog & de Meuron

共に1950年生まれのジャック・ヘルツォーク(左)とビエール・ド・ムーロン(中央)が、78年バーゼルに設立した建築事務所。2001年建築界の最高賞、プリツカー賞受賞。右はシニアパートナーのアスカン・メルゲンターラー。



©Fabriques

上/夏は牧草地になる飼育小屋の屋上で、羊がノンビリ。人々の散歩道としても使われる。下/9棟が連なる施設。冬場は雪崩が起きやすい地帯のため、村の防護壁も兼ねている形状。



FABRIQUES

1981年生まれのビエール(右)、1984年生まれのレミ(左)のジャン兄弟は、2007年に実家のあるロワール地方で建築・ランドスケープの事務所、ファブリックを設立。農村地帯のプロジェクトを通じ、都市や農業へ問題提起する。

FRANCE

ボヌヴァル・シュール・アルク村
農村地帯プロジェクト
●フランス/サヴォア県

見上げれば、そこから覗く羊の顔。風光明媚な村の中核となる施設。

牛 がいる日常で育った建築家とランドスケープデザイナー、それがジャン兄弟。「実家は酪農家です。そんな環境にある僕らの事務所は毎日実践」と笑う。2012年の竣工を目指してサヴォア県の農村で取り組むのが、牛や羊などの飼育小屋9棟を建てるプランだ。1階は家畜小屋、2階は干し草の貯蔵場。屋上はなんと牧草地。家畜を放牧し、冬に備え草を刈り込める。観光にも力を入れる標高1,800メートルのこの地域は、ブルーチーズの名産地としても有名。将来、絶景と酪農を体感できる人気スポットになるかもしれない。

text/Hirokuni Kanki, Kaoru Urata (France)